

1	課題整理の方向性について	2
2-1	課題整理（通学）	3
2-2	主地図による現状整理（通学）	
	仙南圏域	10
	仙台圏域	11
	大崎・栗原圏域	12
	登米・石巻・気仙沼圏域	13
2-3	今後の展望（通学）	14
3-1	主地図による現状整理（通勤）	
	仙南圏域	16
	仙台圏域	17
	大崎・栗原圏域	18
	登米・石巻・気仙沼圏域	19
3-2	今後の展望（通勤）	20
4-1	主地図による現状整理（通院）	
	仙南圏域	21
	仙台圏域	22
	大崎・栗原圏域	23
	登米・石巻・気仙沼圏域	24
4-2	今後の展望（通院）	25
4-3	参考資料	27

1 課題整理の方向性について

各世代ごとに主な移動目的、移動時間帯、自家用車利用の可否など移動特性が異なることから、それぞれの世代ごとに分けて課題を分析した。

世代	人口割合 (2025)	人口割合 (2030)	主な移動目的	外出率 (平日)	自家用車 利用
学生 (15歳～19歳)	10.5万人 (4.7%)	9.9万人 (4.6%)	通学	学生 (95.2%)	×
生産年齢人口 (15歳～64歳)	133.2万人 (59.5%)	128.2万人 (59.0%)	通勤	就業者 (94.1%)	○
高齢者 (65歳～)	66.6万人 (29.7%)	67.7万人 (31.2%)	通院・買物・私事	高齢者(有職) (87.0%) 高齢者(無職) (63.2%)	△
総人口	223.9万人	217.2万人		83.2%	

出典：日本の将来推計人口（令和5年推計） 国立社会保障・人口問題研究所
第5回仙台都市圏パーソントリップ調査現況集計・現況分析編（令和2年7月）

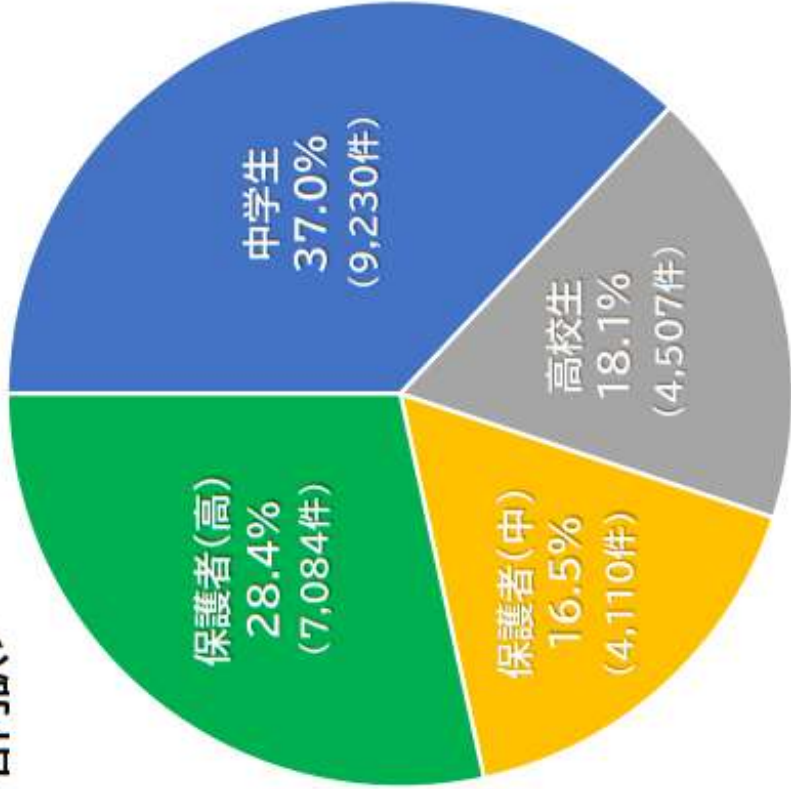
結果概要：回答数

＜回答数＞

24,931件（参考）R5学校基本調査における中学1年生から高校3年生の生徒数：約12万人

※令和6年7月2日～7月31日かけて実施

＜回答者内訳＞



【高校生内訳】

	全日制	定時制	通信制	計
公立	4,248	77	76	4,401
私立	80	4	22	106
計	4,328	81	98	4,507

【保護者(高)内訳】

	全日制	定時制	通信制	計
公立	6,701	38	60	6,799
私立	233	1	51	285
計	6,934	39	111	7,084

＜学年別内訳＞

学年	回答数	割合
中学1年生	3,089	12.4%
中学2年生	3,241	13.0%
中学3年生	2,900	11.6%
高校1年生	1,818	7.3%
高校2年生	1,550	6.2%
高校3年生	1,127	4.5%
中学1年生保護者	1,279	5.1%
中学2年生保護者	1,423	5.7%
中学3年生保護者	1,408	5.6%
高校1年生保護者	2,635	10.6%
高校2年生保護者	2,242	9.0%
高校3年生保護者	2,184	8.8%
その他※	35	0.1%
計	24,931	100.0%

※「その他」は定時制、通信制で4年以上在籍の方

※割合については小数点以下第2位を四捨五入の関係で
合計が一致しない場合があります（以降同じ）

2-1 課題整理（通学）

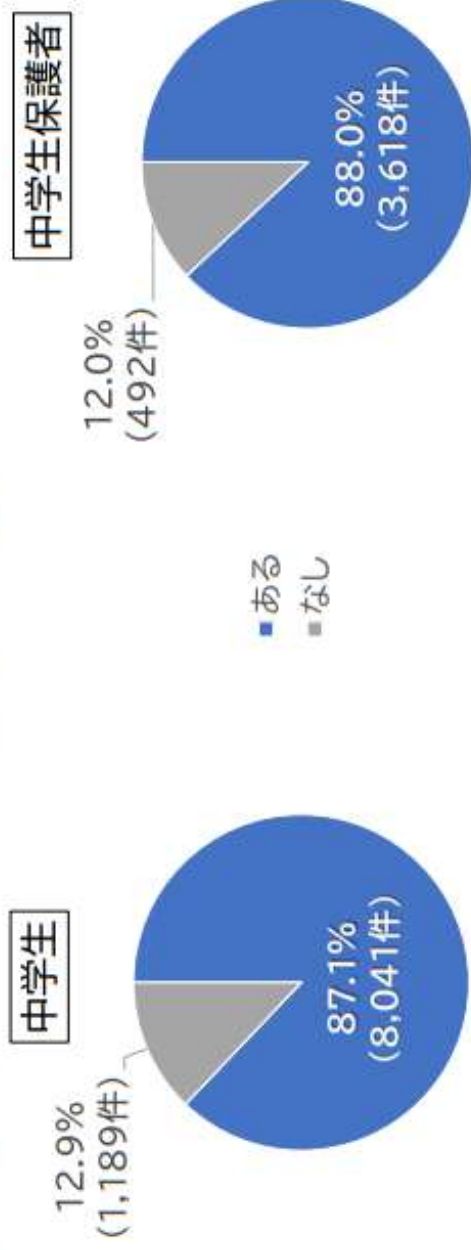
■ 結果概要：高校進学時に重視する(した)こと(選択式(3つまで))

<高校進学時に重視する(した)こと>

	中学生		中学生保護者		高校生		高校生保護者	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
①学科	2,404	26.0%	733	17.8%	1,055	23.4%	1,509	21.3%
②卒業後の進路(進学)	3,021	32.7%	2,170	52.8%	1,392	30.9%	2,905	41.0%
③卒業後の進路(就職)	1,581	17.1%	707	17.2%	414	9.2%	475	6.7%
④自分の学力と合っていること	4,086	44.3%	2,266	55.1%	2,393	53.1%	4,044	57.1%
⑤授業・学習指導	1,251	13.6%	744	18.1%	339	7.5%	670	9.5%
⑥部活動	3,219	34.9%	656	16.0%	773	17.2%	1,294	18.3%
⑦学校行事	1,603	17.4%	58	1.4%	434	9.6%	249	3.5%
⑧立地(通学のしやすさ)	1,849	20.0%	1,690	41.1%	1,141	25.3%	2,358	33.3%
⑨通学時間	1,270	13.8%	653	15.9%	926	20.5%	1,347	19.0%
⑩校風	1,184	12.8%	586	14.3%	696	15.4%	1,292	18.2%
⑪学費などの経済的負担	1,026	11.1%	969	23.6%	349	7.7%	964	13.6%
⑫資格取得	682	7.4%	236	5.7%	326	7.2%	393	5.5%
⑬家族や中学校の先生の勧め	458	5.0%	54	1.3%	410	9.1%	302	4.3%
⑭先輩や友人の勧め	413	4.5%	17	0.4%	148	3.3%	138	1.9%
⑮その他	176	1.9%	68	1.7%	121	2.7%	194	2.7%
計	9,230	—	4,110	—	4,507	—	7,084	—

結果概要：進学したい(してほしい)高校は自宅から通える範囲にあるか

＜進学したい(してほしい)高校は自宅から通える範囲にあるか＞



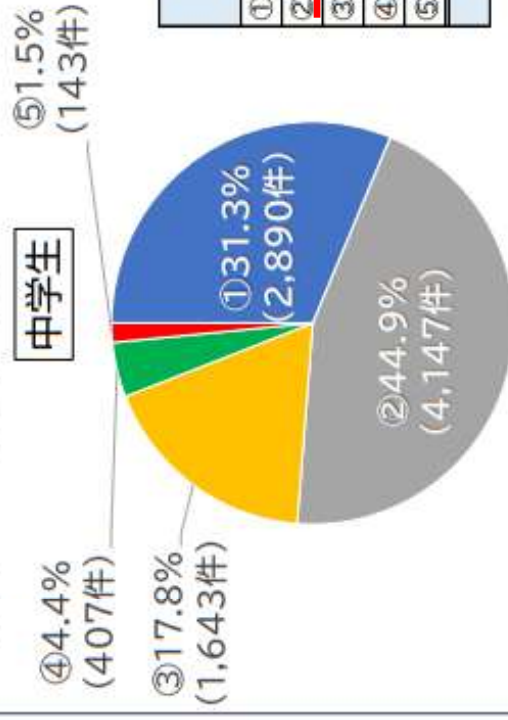
＜進学したい(してほしい)高校は自宅から通える範囲にあるか・地区別＞※地区は回答者の居住エリア

地区	中学生			中学生保護者		
	ある	なし	計	ある	なし	計
南部	1,545	175	1,720	480	65	545
中部	3,764	487	4,251	1,969	224	2,193
大崎	1,393	258	1,651	725	115	840
栗原	215	49	264	51	11	62
登米	617	115	732	132	26	158
石巻	232	39	271	149	28	177
気仙沼	274	64	338	111	22	133
県外	1	2	3	1	1	2
計	8,041	1,189	9,230	3,618	492	4,110

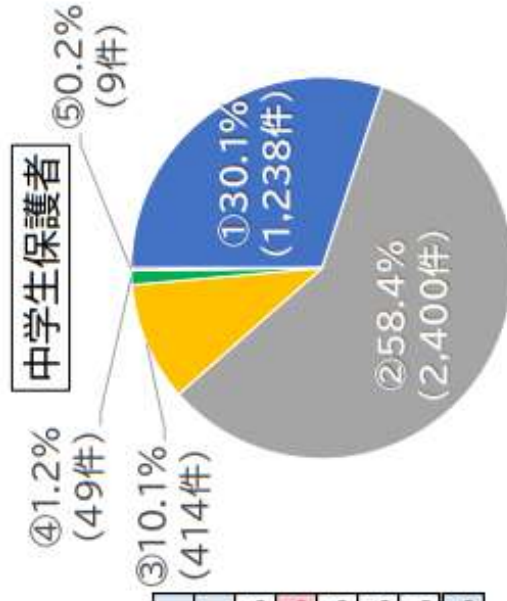
2-1 課題整理(通学)

結果概要: (許容でざる)通学時間

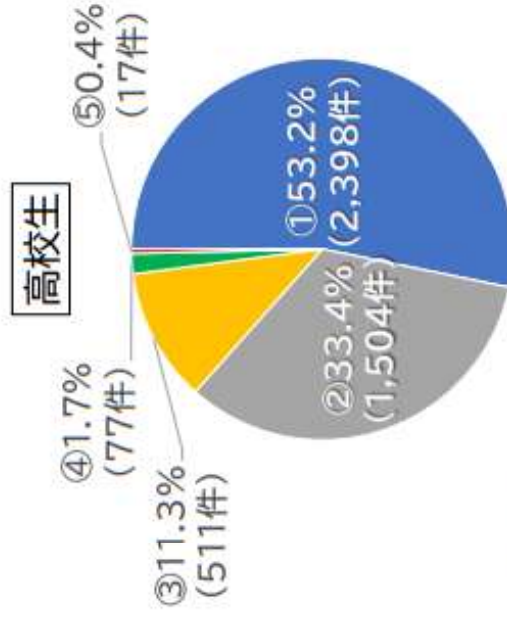
＜許容でせらる通学時間＞



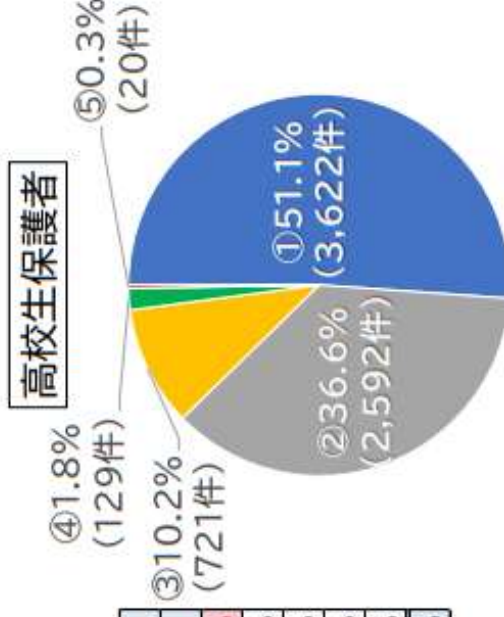
	中學生		中學生保護者	
	回答數	割合	回答數	割合
①片道30分以内	2,890	31.3%	1,238	30.1%
②片道1時間以内	4,147	44.9%	2,400	58.4%
③片道1時間半以内	1,643	17.8%	414	10.1%
④片道2時間以内	407	4.4%	49	1.2%
⑤片道2時間超	143	1.5%	9	0.2%
計	9,230	100.0%	4,110	100.0%



＜通学時間＞



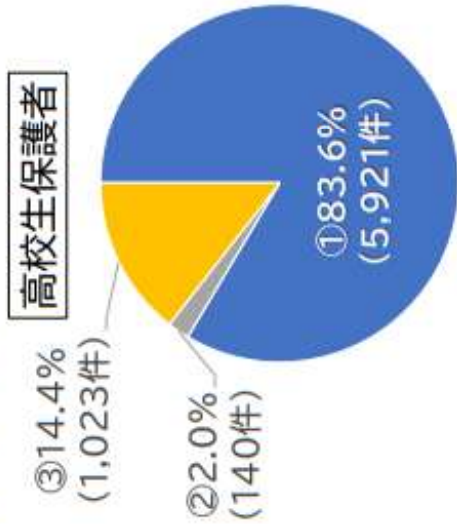
	高校生		高校生保護者	
	回答数	割合	回答数	割合
①片道30分以内	2,398	53.2%	3,622	51.1%
②片道1時間以内	1,504	33.4%	2,592	36.6%
③片道1時間半以内	511	11.3%	721	10.2%
④片道2時間以内	77	1.7%	129	1.8%
⑤片道2時間超	17	0.4%	20	0.3%
計	4,507	100.0%	7,084	100.0%



- ①片道30分以内
- ②片道1時間以内
- ③片道1時間半以内
- ④片道2時間以内
- ⑤片道2時間超

結果概要：子どもを今の高校に進学させて良かったか

＜子どもを今の高校に進学させて良かったか＞



■ ①はい ■ ②いいえ ■ ③どちらでもない

＜子どもが通う高校で満足していること(していないこと)選択式(2つまで)＞

満足していること	回答数	割合
①授業・学習指導	2,349	33.2%
②部活動	1,795	25.3%
③学校行事	799	11.3%
④立地(通学のしやすさ)	1,707	24.1%
⑤通学時間	1,126	15.9%
⑥校風	1,175	16.6%
⑦学費などの経済的負担	1,030	14.5%
⑧資格取得	465	6.6%
⑨学校の先生	588	8.3%
⑩友人関係	1,798	25.4%
⑪満足していない	193	2.7%
回答者計	7,084	-

満足していないこと	回答数	割合
①授業・学習指導	891	12.6%
②部活動	866	12.2%
③学校行事	217	3.1%
④立地(通学のしやすさ)	1,175	16.6%
⑤通学時間	807	11.4%
⑥校風	287	4.1%
⑦学費などの経済的負担	461	6.5%
⑧資格取得	392	5.5%
⑨学校の先生	570	8.0%
⑩友人関係	352	5.0%
⑪満足している	2,676	37.8%
回答者計	7,084	-

■ 結果概要：よりよい高校、学校生活にするアイデア（自由記述の主な内容）（4／4）

<教員に関すること(約300件)>

- 相談事や困っていることがあるときに、自分が話してみたい先生といつでも話せるようにしたい。(高校生)
- 難しいとは思いますが、担任の先生が子どもそれぞれの性格や個性を理解し、寄り添ってほしい。(高校生保護者)
- 先生方が時間にも心にも余裕を持って生徒に向き合えるような環境を整えてほしい。(高校生保護者)

<部活動に関すること(約300件)>

- 公立私立関係なく文化部を増やしてほしいです。文化部は、どの学校も、おんなじような部活しかないと思ったからです。例えばあんまり無い華道部や演技部です。(中学生)
- 高校の部活動に、高校が強制的に加入させることを禁止してほしいです。そうすれば、学校の部活動以外でやってみたいことに挑戦できる機会が増えるし、精神的に負担を感じる人も減ると思います。また、部活動は本当にやりたいと思う人がやるべきだと思います。(高校生)

<通学に関すること(約250件)>

- バスなどの通学手段を増やせれば高校選びの選択肢が増えたり、入学後も時間に余裕ができると思う。(高校生)
- どの学校でも言える事ですが、通学に不便な所が多いと感じます。私立は、各学校でバスを走らせて遠くからでも通えるようにするので、無償と言わなくても有料でも構わないので、各方面からのバスがあれば良いと思います。結局、魅力ある学校があっても自宅から通えないとなると選択肢も限られてしまい、未来ある子供達に夢を持たせてあげたいです。(中学生保護者)

<学級規模に関すること(約50件)>

- 1学級40人は、きっと今の時代には合わないのかもしれないです。もっと少人数制にして、担任の先生が一人一人を見られるような体制にしないと、先生方の負担が大きくなると思います。また、息子の通っている学校では、学力に応じて数々の教科は3クラスに分けて、学力にあった授業の進め方をしてくれるようなので、そこは凄く有り難いと思っています。(高校生保護者)

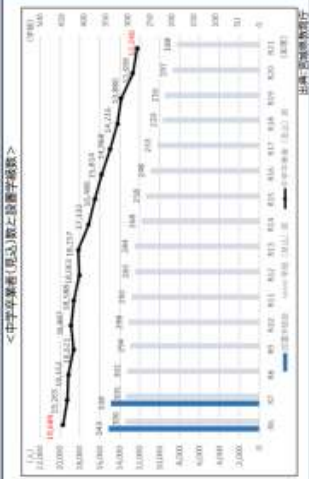
【概要】 (仮称) 第4期県立高校将来構想答申骨子 (案)

資料 1

第1章 新たな県立高校将来構想の策定について

▶ 策定の趣旨

- 急速な少子化の進行
 - ・中学校卒業生(見込)数
R6:19,689人 ⇒ R21:12,240人
(▲7,449人、▲37.8%)
 - ・全日制公立高校の学級(見込)数
R6:343学級 ⇒ R21:188学級
(▲155学級、▲45.2%)
- ※令和8年度から所得制限のない高校授業料無償化が始まる見通しであり、私立高校への進学人数が増え、公立高校の学級(見込)数がさらに減少する可能性がある



第2章 高校教育を取り巻く現状と課題

▶ 高校教育を取り巻く現状と課題

- 社会経済環境の変化
- ・デジタル・グローバル化等、必要となる知識・能力の変化
- ・成年年齢の引き下げ
- 県立高校の現状と課題
- ・生徒の教育的ニーズに応じた学びの多様化
- ・地域産業を支える人材育成に向けた産業分野の学びの確保

第3章 高校教育の創造的な再構築に向けた考え方

▶ 基本理念

- ①全ての生徒の可能性を最大限引き出す質の高い高校教育を実現するため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。
- ②学校に生徒を合わせるのはなく、興味・関心や希望に応じて生徒が学びを選べる、生徒を主語にした高校教育を実現する。
- ③この実現に向け、少子化の急速な進行等の社会経済環境の変化を直視しながらも、魅力的な教育環境を整えるため単なる数合わせではなく、県立高校の創造的な再構築を行う。

▶ 基本方針

- ①県内にどこに住んでいても生徒の興味・関心や多様な進路希望に対応できる教育機会を確保する。
- ②スクール・ミッションの再定義を行い、各校の特色を強く打ち出すことで、生徒に合った、質の高い学びの機会を提供する。
- ③少子化の進行による生徒数の減少や学校の小規模化の中でも生徒が切磋琢磨し、刺激し合うことができる環境を整える。
- ④デジタル技術を活用した学びと、対面によるリアルな学びを効果的に組み合わせ、多様化・グローバル化する社会の中で、主体的に課題に取り組み、未来を切り拓く資質・能力を育む新たな学びの環境を整える。
- ⑤地域資源を活用するなどして専門性・応用力を高め、より実践的に学べる環境を整備する。
- ⑥多様な状況の生徒、配慮や支援が必要な生徒が取り組みやすい環境づくりを進める。

▶ 学校配置及び学校規模の考え方

- ①圏域の見直し (7圏域⇒5圏域) と学校間連携・オンラインによる教育空間の拡張
- ②普通科改革の推進や拠点校での進学に対応した教育支援の充実
- ③学校・学科間連携による専門学科における多様な教育の提供
- ④圏域の実情に応じた生徒の多様な生活・学習スタイルに対応した高校の配置
- ⑤通学困難地域における小規模校の存置又は通学・移動手段の確保
⇒人口減少を見据え、圏域ごとの必要学級数を設定する。



▶ 再構築後の姿

中部地区	中部地区以外	中部地区以外
・進学校と特色ある普通科、専門学科の基幹校を配置	・圏域ごとに拠点校を配置 ・特色ある普通科や専門学科は、学校・学科の連携・併置も含め、地域の特性を考慮して配置	・地域の実情に応じた多様な学びへの対応 (Idealスクール、インクルージング教育、通学困難地域の小規模校等) ・市立・私立高校と連携・調整しながら、県立高校が担う役割等を整理

第4章 高校教育の創造的な再構築に向けた取組

▶ 県立高校教育の質の向上の方向性



多様なニーズに対応し、可能性を広げるための学習環境の整備が必要

大学や企業と連携した専門的な学び	地域の特性に応じた学科横断的な学び	実社会と結びついた知識の習得
オンラインを活用した他校と連携した学習	ピアグループの形成による学習	地域資源の活用など特色あるカリキュラム

▶ 多様な学びの在り方

idealスクール	定時制・通信制	特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応
・生徒の多様な生活・学習スタイルにフレキシブルな対応が可能 ・他地域への展開などによる支援の充実	・定時制の現状を踏まえ理想のスクールで取り組んだ実績の活用 ・ニーズを踏まえた、通信制高校(課程)の機能強化等	・高校と特別支援学校の併置等によるインクルージング教育の推進 ・通級や別室支援等による学習や学校生活への支援の充実

▶ 小規模校の学びの在り方

オンラインの効果的な活用推進	地域連携や学校間連携の取組
・小規模校における学びの質の確保に向けた、オンラインの効果的な活用	・地域と密接に関わる探究的な学びなどによる学校づくりの推進 ・学校間連携による学習機会等の確保

▶ オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張

- ・オンライン教育センター (仮) の設置による学びの質の確保や生徒の多様な教育的ニーズに応じた教育環境の整備

第5章 将来構想の推進

▶ 家庭・地域・学校の協働の必要性と役割

- ・将来構想の推進に向けコミュニティ・スクールの仕組みを活用し、家庭・地域・学校が役割分担をしながら協働する。
- ・市町村との連携・協働を一層推進するとともに、企業や関係団体等との連携体制等を構築する。

▶ 持続可能な学校教育の推進

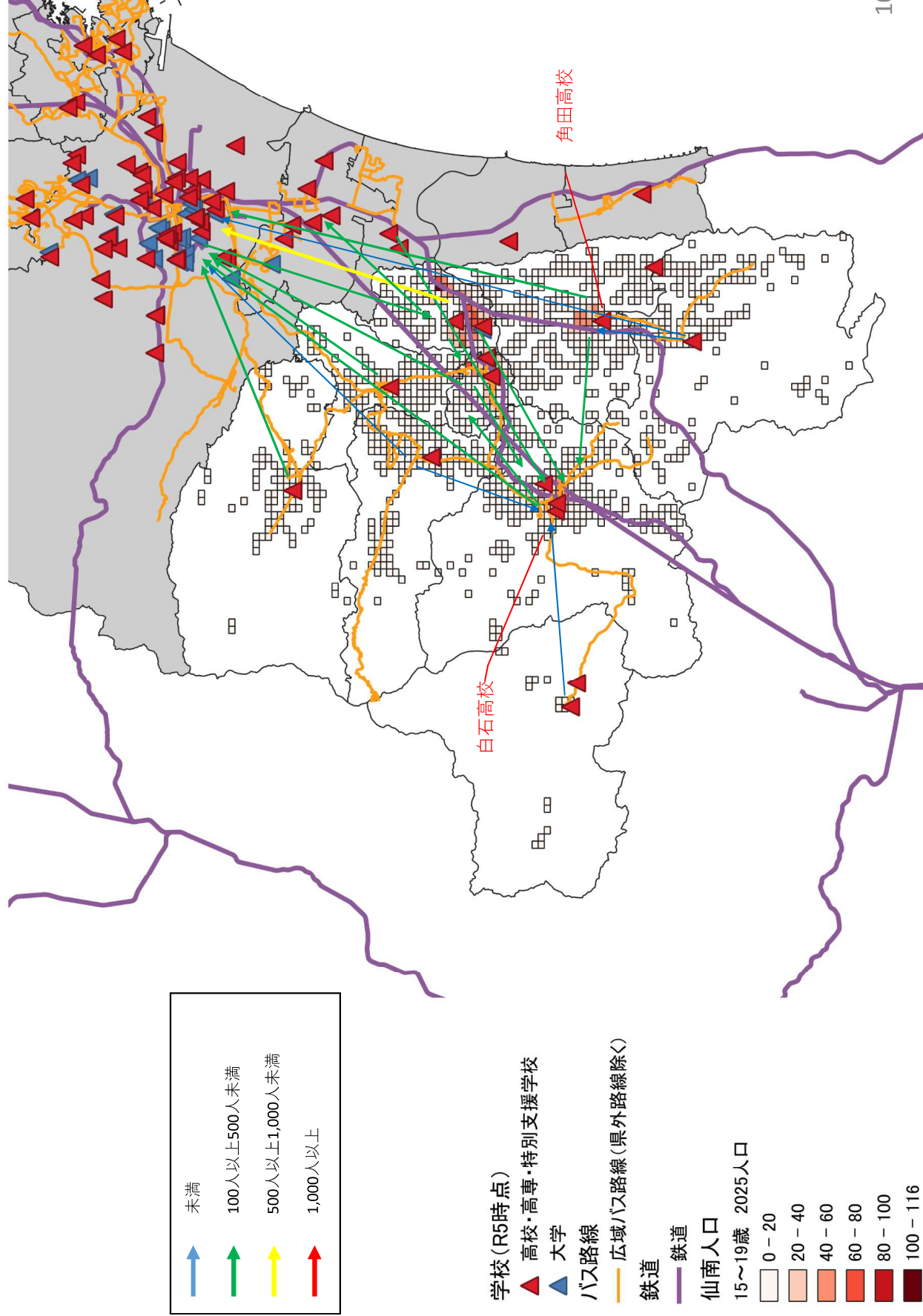
- ・社会に開かれた教育課程の推進
- ・全ての生徒の可能性を最大限引き出す質の高い教育を実現するための教職員の資質能力向上と働き方改善の推進
- ・構想の実現に向けて、ニーズを見極めながら外部リソースも積極的に活用するなど、必要な体制の確保に努める。

▶ 将来構想の推進に向けた適性な進路管理

- ・さらなる少子化の進行や国の制度改正などに応じて、必要な見直しを行う。
- ・将来構想の推進に向けた関係者による推進体制を構築し、進路管理を行う。

2-2 主題図による現状整理（通学）

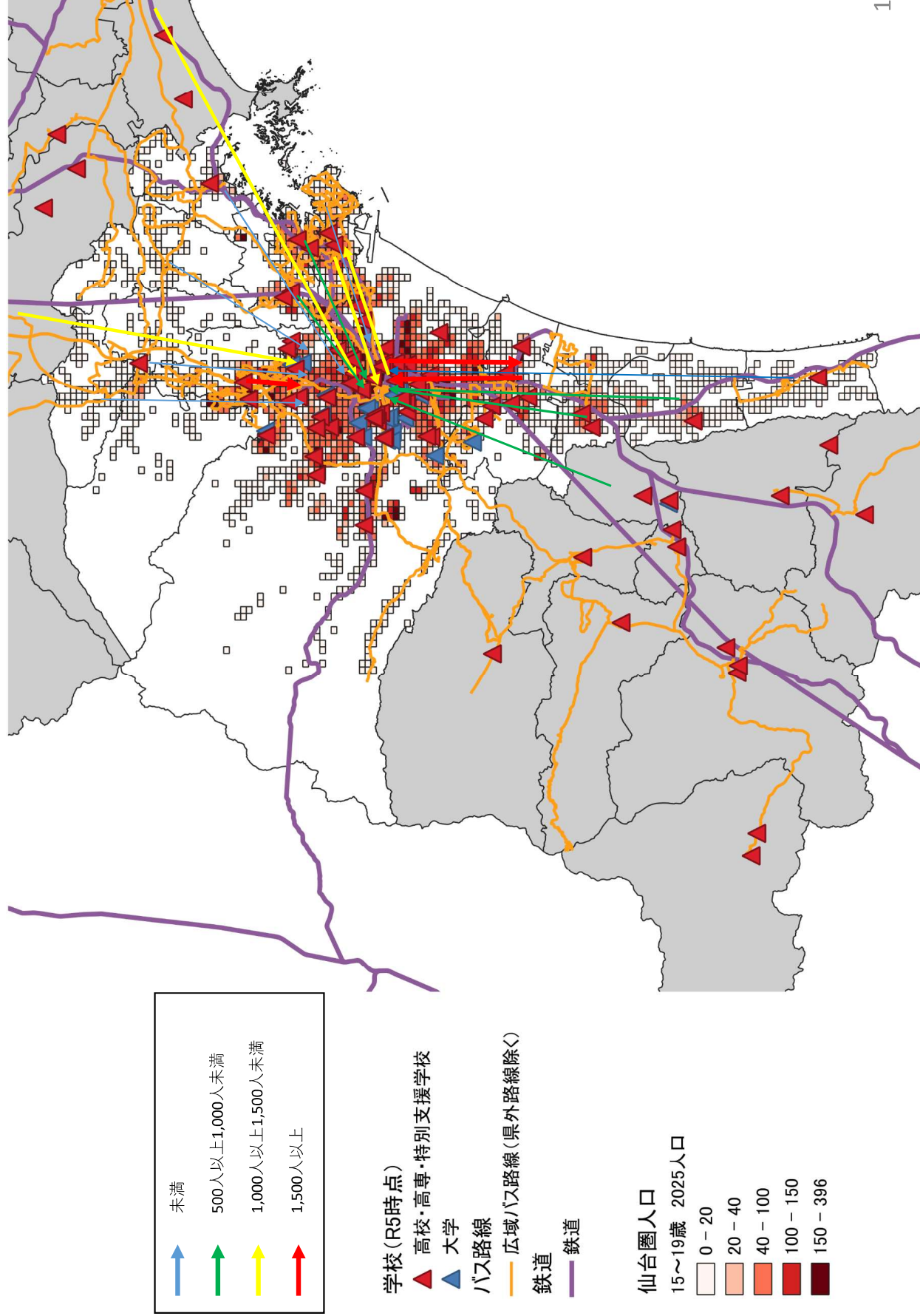
- ・鉄道により仙台市との交通ネットワークが充実している市町村では、仙台市への流出が多く見られる。
- ・鉄道で接続されていない川崎町、蔵王町、村田町についても、距離が近傍であることもあり仙台市への流出が多い。
- ・地域進学重点校の立地する白石市への流入が多くみられる（2市7町で流入超過となっているのは白石市のみ）。特に人口が多く、鉄道で接続されている自治体（岩沼、角田、大河原、柴田）からの流入が目立つ。



2-2主題図による現状整理（通学）

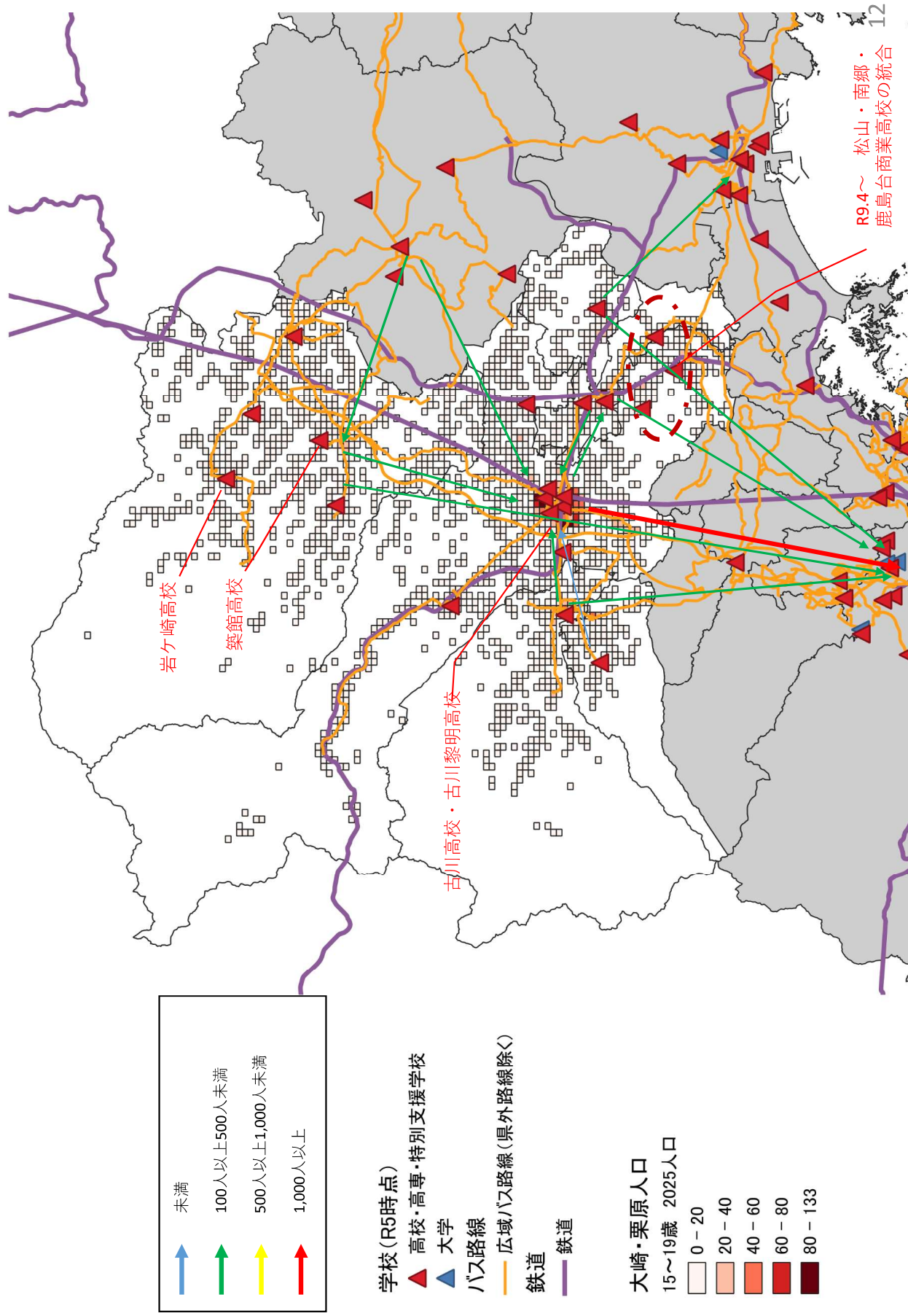
・県内の主な進学校や大学が立地している仙台市への流入が見られる。周辺の人口集中地域である名取市・多賀城市については仙台市から各市への流出も多く見られるが、富谷市においては、仙台市への流出が顕著である。

・地方中心城市である大崎市、石巻市からも公共交通ネットワークが充実していることから、仙台市への一定数の流入が見られる。



2-2主題図による現状整理（通学）

- ・全ての市町村で流出超過の状態であり、県内の主な進学校や大学が立地している仙台市への流出も見られる。
- ・通谷町に関しては、仙台市と石巻市への流出が多く、圏域外への移動割合が多い（通勤特性と異なる）。
- ・圏域移動では、中心市である大崎市への流入が多く見られる。
- ・令和9年度に松山・南郷・鹿島台商業高校の統合が予定されている。



2-2主題図による現状整理（通学）

- ・仙石線沿線の自治体（東松島市、石巻市）では仙台圏への流出も多く見られる。
- ・石巻市、気仙沼市は流出超過であるもののほぼ同等数の流入も見られ、周辺から学生が流入していることが分かる。
- ・登米市に関しては、仙台市・大崎市・栗原市・石巻市へ4方向の流出があり、移動ニーズが多様化している。

